

資料紹介

西南学院大学博物館所蔵「宗門御改影踏帳」(1)

目次

目次	一
解題	二
凡例	七
「宗門御改影踏帳」(1)	八

資料紹介

西南学院大学博物館所蔵「宗門御改影踏帳」(1)

安高 啓明

稲益 あゆみ

解題

西南学院大学博物館が所蔵する「宗門御改影踏帳」(資料番号A1-001-1)は、通称「宗門人別改帳」と呼ばれるものである。キリシタン禁教政策が展開されていくなかで、幕府は寺請制度を確立し、町人・村人を檀那寺に所属させることで人民統制を図った。幕府の禁教政策を象徴するものであるとともに、江戸時代の戸籍の用途も果たしたのが本資料ということになる。

宗門人別改帳として現存している最古のものは、寛永十一(一六三四)年七月二十七日付の「平戸町人数改之帳乙名石井新兵衛」(九州大学附属図書館附設記録資料館九州文化史資料部門蔵)とされる。これは一冊三十三丁からなり、家持町人の部に借屋人の部がつづき、一戸ごとに戸主以下の家族・下人・下女の順で記し、合計の人数と男女の内訳を書き示している。全冊一筆で、本人の印があり、「転び」か否か記載はないものの、「転び」でない仏教徒(素人)には「元来」と特記し区別している¹⁾。

先の平戸町の人別帳は、幕府直轄領長崎の平戸町に居住する町人のものになる。本資料は嶋原藩武家の人別帳であり、全十一冊からなる。本資料の紹介に先立ち、各冊が所収する年次及び法量、形状、丁数を記しておく次のようになる。

1. 無表題(「宗門御改影踏帳」) / 天明四(一七八四)年 / 三一・〇 × 二三・〇 / 堅帳 / 十九丁
 2. 宗門御改影踏帳 / 文化三(一八〇六)年 / 三一・五 × 二二・〇 / 堅帳 / 二十七丁
 3. 宗門御改影踏帳 / 文化十三(一八一六)年 / 三一・〇 × 二三・〇 / 堅帳 / 三十七丁
 4. 宗門御改影踏帳 / 文化十三(一八一六)年 / 三一・〇 × 二三・〇 / 堅帳 / 二十二丁
 5. 宗門御改影踏帳 / 天保二(一八三二)年 / 三一・〇 × 二三・〇 / 堅帳 / 三十六丁
 6. 宗門御改影踏帳 / 天保二(一八三二)年 / 三一・〇 × 二三・〇 / 堅帳 / 十九丁
 7. 宗門御改影踏帳 / 天保四(一八三三)年 / 三一・五 × 二二・五 / 堅帳 / 十九丁
 8. 宗門御改影踏帳 / 嘉永五(一八五二)年 / 三一・〇 × 二二・五 / 堅帳 / 五十二丁
 9. 宗門御改影踏帳 / 嘉永五(一八五二)年 / 三一・〇 × 二二・五 / 堅帳 / 二十一丁
 10. 宗門御改影踏帳 / 嘉永七(一八五四)年 / 三一・〇 × 二三・〇 / 堅帳 / 五十六丁
 11. 宗門御改影踏帳 / 文久三(一八六三)年 / 三二・〇 × 二三・〇 / 堅帳 / 十七丁
- 本稿では、紙幅の都合上、天明四年(A1100111)・文化三年(A1100112)・文化十三年(A1100113)・文化十三年(A1100114)のみを取り上げる。

西南学院大学博物館が所蔵する「宗門御改影踏帳」の作成者は「寄合」(2) (6)、「宗門方」(7) (11)とある。²⁾「宗門方」は藩の職制では町方に属し、町奉行、そして吟味役の下に位置している。³⁾宗門人別改帳は役所に提出する分と控えのものが存在する。毎年役所に提出される宗門人別改帳は、一定期間管理された後に破棄され、当該年のものを受け入れる。今日、残されている宗門人別改帳は、概ね町方・村方で控えとして作成されたもので、本資料もこれにあたるものと推察される。

なお、本資料の表紙(資料名)には「宗門御改影踏帳」とある。影踏とは絵踏のことであり、嶋原藩では絵踏の行為を影踏と称していた。そのため、これを反映した通称「宗門人別改帳」が作成されたのであり、この呼称の相違は、各地での呼ばれ方に起因するものだった。例えば、天草のよう4)に支配替わりしているところでは、長崎代官時代には「宗門御改踏絵帳」と称しているながら、支配替による嶋原藩時代には「宗門御改影踏絵帳」として作成されていたのである。⁴⁾つまり、絵踏の呼称の地域性が、ここに反映されたのである。

嶋原藩は長崎奉行所から踏絵を借用して絵踏を行っていた藩のひとつである。嶋原藩と同じく長崎奉行所から踏絵を借用していたところには、豊後日出、五島、大村、延岡、豊後岡、豊後

中津、白杵、府内、杵築などがあつた。嶋原藩は、福岡藩や熊本藩などのように自藩で踏絵を所持することが認められず、然るべき時期がきたら、長崎奉行所へ赴き手続きを経て踏絵を借用していたのである。

長崎において、絵踏は正月三日に町年寄方でおこなわれ、翌日から町方から始められるのが慣例で、二月中旬には村方での絵踏が終了した。時期的なこととあつて、絵踏は年中行事化していった面がある。そして三月中には長崎奉行所および代官所に宗門人別改帳を提出した。嶋原藩の場合は、本資料を通覧すると、起請文の日付が正月や二月となつている。嶋原藩では、一月二十五日、二十六日に城下から絵踏が行なわれていた⁵。絵踏開始にともない起請文が読み聞かせられたことから、この日付は起請文が作成された日ということになる。

本資料は共通して起請文前書が収められ、以下、檀那寺と人名が続く。そして、末尾には差出および宛所があり、各冊共通して、寺院から家臣へ宛てられていることがわかる。なお、天明四年本と文化三年本には紙踏絵が収められているが、これらはのちに綴じ直された際に挿入されているのであろう⁶。嶋原藩では明治四年（一八七二）まで影踏が行なわれており、あわせて宗門帳も作成されている。

宗門人別改帳には檀那寺に所属するすべての人が記載される。しかし、宗門改の時に外出しているものがあつたら、該当者の箇所に行き先が記されている。本資料の基本的な構成は、「一檀那寺／押印／生所／役職・組／氏名／押印」となつている。押印はすべて黒印で、檀那寺は丸印もしくは角印、戸主は丸印、女性の場合は筆軸印が押されている。

嶋原藩では戸別に影踏が行なわれていたようで、戸ごとに「メ／人内男／人女／人」と記されている。また、夫と妻で檀那寺が異なっていたり、父子家庭でも異なっている例が散見される。また、父方の檀那寺ではなく、母方の檀那寺に属している子供も見受けられる。

本資料によって、断片的ではあるものの、嶋原藩武家の人口が示される。あわせて、ここに記された職名によって、江戸時代中後期の嶋原藩の職制がわかる。また、家内で檀那寺が異なるなど、江戸時代の家族形態も知ることができる。前記したように、嶋原藩は絵踏を影踏と称していた。これを反映するような宗門人別改帳が作成されており、絵踏の地域性も裏付ける資料といえよう。

1 五野井隆史「日本キリスト教史」吉川弘文館、一九九〇年二三三～二三五頁。

2 「1. 無題」については表紙欠損のため作成者不明。

3 『藩史大事典』第七卷九州編（雄山閣、一九九三年）二二八～二二九頁。

4 安高啓明「天草における宗門改―影踏と踏絵―」（安高啓明編『海流に魅せられた島 天草―祈りの原点とキリシタン文化』西南学院大学博物館、二〇一二年）四五～四八頁。

5 片岡弥吉「踏絵―禁教の歴史―」（日本放送出版協会、一九八一年）七七～七九頁。

6 紙踏絵については、高倉洋彰「踏絵の形態―紙踏絵の紹介と検討―」（日本考古学協会二〇一二年度福岡大会実行委員会編『二〇一二年度福岡大会研究発表資料集』一般社団法人日本考古学協会、二〇一二年）二五～四五頁を参照されたい。

凡例

- 一、本書は、嶋原藩の宗門人別改帳である。
- 一、本書の原本は、西南学院大学博物館に所蔵されている。
- 一、刊行に際しては、なるべく原本の体裁を表すようにつとめたが、多少の修正を加えているところもある。
- 一、変体仮名は、江、而のみ活字を小さくして用い、他は平仮名に改めた。また方はもとのままにした。
- 一、旧字は原文通りとした。
- 一、原本の虫損等により判読不能の文字は□で示した。
- 一、原本の抹消や書き直しなどによる訂正はその両方を示した。
- 一、氏名は原文通りとした。
- 一、原本にある貼紙は四角で囲んで表記した。

〔無表題〕

一我々儀切死丹ニ^而無御座親祖父々全傳ニ^而も無御座候付影踏宗門并頼置候寺又は生国銘々書付差
上申候少も切死丹之儀心底ニ含不申候付切死丹之起請文書載申候此旨相達御座候ハ、てうす伴
天連ひいりよすひりつさんとう始さんたまりや諸々のあんしよへあとの罰を蒙りてうす乃かう
さ絶果しゆうたつのごとく頼母敷を失終頓死仕いんへるの、苦患ニ被責浮事御座有間敷事

一自然切死丹之儀承候ハ、可申上事

一只今迄之宗門替申度付^而は御断申上其上ニ^而替可申事

一我々儀弥切死丹ニ^而無御座候付又日本之起請文を以申上候若偽お申上は 梵天帝釋四大大天皇^而
日本国中大小之神祇八幡大菩薩愛宕山大権現天満自在天神別^而温泉四面大明神猛嶋大明神之可
蒙御罰者也仍^而起請文如件

天明四年辰二月

〔紙踏絵〕

一安養寺印 生嶋原

甲斐喜平太 妻○

一同 寺印 同

娘 里乃○

ノ式人女

一晴雲寺印 生嶋原

嶋田吉郎右衛門 妻○

ノ老人女

一快光院印 生嶋原

加藤喜惣右衛門印

一同 寺印

妻○

一同 寺印 同

娘 由く○

一同 寺印 同

倅 小太郎○

一同 寺印 同

父 幾左衛門○

一護国寺印 同

母○

ノ六人内男三人 女三人

一晴雲寺印 生嶋原

酒田清蔵 妻○

ノ老人女

- | | | | |
|-------------------|------------------------------------|----------------------|----|
| 一安養寺 ^印 | 生嶋原 | 丸山弥五助 ^印 | 妻○ |
| 一同 寺 ^印 | 同 | | |
| | ノ式人内 <small>男
女
老人</small> | 丸山弥一左衛門 ^印 | |
| 一安養寺 ^印 | 生嶋原 | 大沢段七 ^印 | 妻○ |
| | ノ老人男 | | |
| 一安養寺 ^印 | 生嶋原 | | |
| 一光傳寺 ^印 | 同 | 川井丈右衛門 ^印 | 妻○ |
| | ノ式人内 <small>男
女
老人</small> | | |
| 一江東寺 ^印 | 生嶋原 | 妻○ | |
| 一同 寺 ^印 | 同 | 娘 津累○ | |
| 一同 寺 ^印 | 同 | 同 具里○ | |
| 一同 寺 ^印 | 同 | 同 屋寿○ | |
| 一善法寺 ^印 | 同 | 倅 伊兵衛○ | |
| | ノ六人内 <small>男
女
老人</small> | | |
| 一本光寺 ^印 | 生嶋原 | 荒木彦藏 ^印 | |
| 一同 寺 ^印 | 同 | 娘 きよ○ | |
| 一同 寺 ^印 | 同 | 倅 多喜太郎○ | |
| | ノ三人内 <small>男
女
老人</small> | | |
| 一晴雲寺 ^印 | 生嶋原 | 渡部好兵衛 妻○ | |
| | ノ老人女 | | |
| 一晴雲寺 ^印 | 生嶋原 | 奥村忠四郎 ^印 | 妻○ |
| 一同 寺 ^印 | 生宇都宮 | | |
| 一同 寺 ^印 | 生嶋原 | 娘 多起○ | |
| 一同 寺 ^印 | 同 | 倅 龍太郎○ | |
| 一同 寺 ^印 | 同 | 娘 毛恵○ | |

一 同 寺 ^印	同	同 加祢○
一 淨源寺 ^印	同	父 友藏○
一 晴雲寺 ^印	同	母○
一 安養寺 ^印	生嶋原	永野左七
一 同 寺 ^印	同	倅 熊太郎○
一 快光院 ^印	生嶋原	本多仙六 妻○
一 晴雲寺 ^印	生嶋原	磯永貞治 ^印
一 同 寺 ^印	同	娘 まさ○
一 同 寺 ^印	同	同 きく○
一 同 寺 ^印	同	倅 幸三郎○
一 快光院 ^印	生嶋原	瀬崎段四郎孫 婦さ○
一 安養寺 ^印	生嶋原	弓削仁太夫孫 津累○
一 快光院 ^印	生嶋原	市川時左衛門倅 定之進○
一 同 寺 ^印	生大和	定之進倅 民五郎○
一 同 寺 ^印	同	同人娘 てい○
一 光傳寺 ^印	生嶋原	宮田怡助 ^印
一 晴雲寺 ^印	同	妻○
一 護國寺 ^印	生嶋原	本多市右衛門 妻○

文化三丑年

宗門御改影踏帳

正月
寄合

紙踏絵

一我々儀切死丹^二而無御座親祖父より全傳^二而も無御座候ニ付影踏宗門并頼置候寺又ハ生国銘々書付差上申候少も切死丹之儀心底ニ含不申候ニ付切死丹之起證文ニ書載申候此旨相違御座候ハ、てうす伴天連ひいりよすひりつさんとう始さんたまりや諸々のあんしよへあとの罰を蒙りてうすのかうさ絶果しゆうたつのことく頼母敷を失ひ終ニ頓死仕いんへるのの苦患ニ責られ浮事御座有間敷事

一自然切死丹之儀承候ハ、可申上事

一只今迄之宗門替申度ニ付^二は御断申上其上^二而替可申事

一我々儀弥切死丹^二而無御座候ニ付又日本之起證文を以申上候若偽お申上者梵天帝釋四大大天王惣^而

日本國中大小之神祇八幡大菩薩愛宕山大権現天満大自在天神別^而温泉四面大明神猛嶋大明神之可蒙御罰者也仍^而起證文如件

文化三年

寅正月

一浄源寺^印 生嶋原

内藤周蔵

メ老人男

一江東寺^印 生嶋原

中島平太左衛門^印

一同 寺^印 同

倅 甚治○

一同 寺^印 同

同 平三郎○

一同 寺^印 同

同 新八郎○

一快光院^印 生嶋原

娘 恵つ○

メ五人内^{男四人 女一人}

一浄源寺^印 生嶋原

黒田祐右衛門^印

一同 寺^印 同

倅 弁之助○

一同 寺^印 同

同 新三郎○

一同 寺印 同 娘 さく○
一同 寺印 同 妻○

一善法寺印 生嶋原 本多良太夫印
一同 寺印 同 母○

一淨源寺印 生嶋原 梅村俊藏印
一同 寺印 同 倅 安之丞○

一淨源寺印 生嶋原 内藤貞八郎印

一桜井寺印 生嶋原 本多利八印

一崇台寺印 生嶋原 荒木平兵衛印
一同 寺印 同 倅 廉之助○

一同 寺印 同 同 銀之丞○
一同 寺印 同 娘 とみ○

一崇台寺印 生嶋原 荒木鉄弥印

一護国寺印 生嶋原 雨森仁平印
一同 寺印 同 倅 金之助○

一同 寺印 同 娘 くみ○
一晴雲寺印 同 妻○

一善法寺印 生嶋原 池田栄兵衛印

一同 寺印 同

倅 栄太郎○

一同 寺印 同

娘 ふ由○

一浄源寺印 同

妻○

ノ四人内男三人 女一人

一晴雲寺印 生嶋原

奥村杢右衛門印

一晴雲寺印 生嶋原

娘 たき○

一同 寺印 同

妻○

ノ三人内男二人 女一人

一晴雲寺印 生嶋原

奥村大右衛門

ノ老人男

一桜井寺印 生嶋原

本多増太夫印

一同 寺印 生嶋原

娘 恵ん○

一同 寺印 同

同 たき○

ノ三人内男二人 女一人

一快光院印 生嶋原

岩堀五郎左衛門印

一同 寺印 同

倅 佐一郎○

一同 寺印 同

娘 た祢○

ノ三人内男二人 女一人

一晴雲寺印 生嶋原

金縄恒平印

ノ老人男

一浄源寺印 生嶋原

渡部為蔵印

ノ老人男

一桜井寺印 生嶋原

中村實兵衛印

一同 寺印 同

倅 萬之助○

一同 寺印 同

同 悦弥○

ノ三人男

一善法寺^印 生嶋原

一同 寺^印 同

一晴雲寺^印 同

ノ三人内男老人
女老人

一江東寺^印 生嶋原

ノ老人男

一浄源寺^印 生嶋原

一同 寺^印 同

一同 寺^印 同

ノ三人内男老人
女老人

一崇台寺^印 生嶋原

ノ老人男

旅行

一晴雲寺^印 生嶋原

ノ老人女

一晴雲寺^印 生嶋原

ノ老人女

一浄林寺^印 生嶋原

一同 寺^印 同

ノ式人内男老人
女老人

一晴雲寺^印 生嶋原

ノ老人女

一江東寺^印 生嶋原

ノ老人女

一江東寺^印 生嶋原

ノ老人女

一浄源寺^印 生嶋原

池田幾左衛門^印

娘 里せ〇

妻〇

上田洪右衛門^印

松下猶太夫

娘 み祢〇

同 やす〇

坂本兵太郎^印

嶋田耕作 妻〇

松原清吉 妻

三原正右衛門 妻〇

磯野元太夫 妻〇

倅 元五郎〇

松村正助 妻〇

古賀定四郎 妻〇

河野吉郎左衛門 妻〇

川井金市 妻〇

一 勝光寺 ^印	ノ 老人女	生嶋原	稲田仁三郎 妻○
一 晴雲寺 ^印	ノ 老人女	生嶋原	坂部平太夫 妻○
一 快光院 ^印	ノ 老人女	生嶋原	本多七郎 母○
一 浄源寺 ^印	同	同	同人 妻○
一 晴雲寺 ^印	ノ 式人女	生嶋原	鈴木益蔵 妻○
一 快光院 ^印	ノ 老人女	生嶋原	宮本圓治 妻○
一 光傳寺 ^印	ノ 老人女	生嶋原	大竹只助 妻○
一 安養寺 ^印	ノ 老人女	生嶋原	佐藤仙太夫 妻○
一 崇台寺 ^印	ノ 老人女	生嶋原	白井作左衛門 妻○
一 浄源寺 ^印	ノ 老人女	生嶋原	鈴木恒兵衛 妻○
一 桜井寺 ^印	ノ 老人女	生嶋原	村里五郎左衛門 妻○
一 晴雲寺 ^印	ノ 老人女	生嶋原	中川貞兵衛 妻○
一 安養寺 ^印	ノ 老人男	生嶋原	船井郡治倅 初太郎○

文化十三年

巻

宗門御改影踏帳

子正月 寄合

一我々儀切死丹ニ^而無御座親祖父より全傳ニ^而も無御座候ニ付影踏宗門并頼置候寺又は生國銘々書付差上申候少も切死丹之儀心底ニ含不申候ニ付切死丹之起證文ニ書載申候此旨相違御座候ハ、てうす伴天連ひいりよすひりつさんとふ始さんたまりや諸々のあんしよひあとの罰を蒙りてうすのかうさ絶果しふたつの如く頼母敷を失ひ終に頓死仕いんへるのの苦患に責られ浮事御座有間敷候事

一自然切死丹之儀承候ハ、可申上候事

一只今迄之宗門替申度ニ付^而は御断申上其上ニ^而替可申事

一我々儀弥切死丹ニ^而無御座候ニ付又日本之起證文を以申上候若偽お申上者梵天帝釋四天王惣^而日本国中大小之神祇八幡大菩薩愛宕山大権現天満自在天神別^而温泉四面大明神猛嶋大明神之可蒙御罰者也仍起證文如件

文化十三年

子正月

一 浄源寺印 生島原

一 同 寺印 同

一 同 寺印 同

ノ 三人内女男式人

一 浄源寺印 生島原

一 同 寺印 同

一 浄源寺印 同

ノ 三人内女男式人

一 晴雲寺印 生島原

一 同 寺印 同

一 同 寺印 同

一 同 寺印 同

ノ 四人内女男式人

黒田祐右衛門印

妻〇

黒田健平印

内藤周蔵印

内藤貞八郎印

娘 ふさ〇

本田良大夫印

娘 き登〇

同 い恵〇

母〇

善法寺 西岡久左衛門

倅 虎之助

斎藤戸一郎印

浄源寺 倅 玉之助

荒木和五郎印

倅 長治〇

妻〇

姉 登美〇

ノ 四人内女男式人

一 安養寺印 生島原

一 同 寺印 同

ノ 式人男

一 晴雲寺印 生島原

下田勝左衛門印

倅 友太郎〇

弓削七兵衛印

一同 寺印 同

一同 寺印 同

一同 寺印 同

ノ四人内男三人 女一人

一快光院印 生島原

一同 寺印 同

一快光院印 同

一同 寺印 同

ノ四人内男三人 女一人

一晴雲寺印 生島原

一同 寺印 同

一同 寺印 同

一同 寺印 同

一同 寺印 同

ノ五人内男三人 女二人

池田幾左衛門

善法寺ふゆ きと

一江東寺印 生島原

一同 寺印 同

一快光院印 同

ノ三人内男二人 女一人

一護國寺印 生島原

一同 寺印 同

一同 寺印 同

一同 寺印 同

娘 志げ

弓削五助印

倅 伊太郎○

加藤良右衛門印

加藤左右進印

倅 岩之助○

娘 さん○

奥村柰右衛門印

妻○

奥村大右衛門

娘 川ち○

同 登恵○

同寺 娘 徒起

佐々木隼太印

弟 末之丞○

妹 恵川○

西川嘉平印

倅 龜次郎○

娘 て川○

妻○

ノ四人内男式人

一晴雲寺印 生島原

一同寺印 同

ノ式人内女男老人

娘きん

金繩常平印

娘 ま川○

一快光院印 生島原

一同寺印 同

ノ式人内女男老人

平城文七印

妻○

一善法寺印 生島原

一同寺印 同

一安養寺印 同

一同寺印 同

一晴雲寺印 同

ノ五人内女男老人

吉見嘉藤治印

娘 恵ひ○

同 ちか○

母○

妹 み能○

一桜井寺印 生島原

一同寺印 同

ノ式人男

中村實兵衛印

倅 音三郎○

一浄源寺印 生島原

一善法寺印 同

ノ式人内女男老人

大村鷲兵衛

姉 茂登○

一護國寺印 生島原

ノ老人男

吉田長右衛門印

一浄源寺印 生島原

一江東寺印 同

ノ式人内女男老人

大竹弥三治印

母○

一晴雲寺印 生島原

阿部亥助印

一同 寺^印 生島原
 一同 寺^印 同
 一崇台寺^印 同
 ^ノ四人男
 一善法寺^印 生島原
 ^ノ老人男
 一江東寺^印 生島原
 一同 寺^印 同
 一同 寺^印 同
 一同 寺^印 同
 一同 寺^印 同
 一同 寺^印 同
 一桜井寺^印 生島原
 ^ノ五人内^{男四人 女一人}
 ^ノ老人男
 一晴雲寺^印 生島原
 一同 寺^印 同
 一同 寺^印 同
 一同 寺^印 同
 一崇台寺^印 生島原
 ^ノ老人男
 一光傳寺^印 生島原
 一同 寺^印 同
 一同 同
 一安養寺^印 同

倅 易太郎○
 同 忠治○
 弟 全壽○

三男徳三郎

池田幾左衛門^印

上田洪右衛門^印

倅 久米太郎○

同 伊三郎○

同 覚三郎○

娘 み津○

志波勘左衛門組 悦弥^印

何加二成不審入候事

是ハ先ニ出候事寸志勤候由

岩田晴助^印

倅 猪勢治○

娘 ぞ能○

同 ち春○

坂本織右衛門^印

尾崎源一郎^印

倅 源太郎○

娘 て徒○

妻○

ノ四人内男式人

一崇台寺印 生島原

能勢勘助印

一同寺印 同

倅 喜代太郎○

ノ式人男

一晴雲寺印 生島原

山本元太郎印

ノ老人男

一晴雲寺印 生島原

林實大夫印

ノ老人男

一晴雲寺印 生島原

丸山甚兵衛印

一同寺印 同

倅 熊三郎○

一同寺印 同

娘 里か○

一同寺印 同

同 きん○

ノ四人内男式人

一淨林寺 生島原

河野数右衛門印

鑑司珉高印

ノ老人男

一光傳寺印 生島原

矢島元次郎印

一專照寺印 同

母○

村百高二成ル

ノ式人内男式人

一善法寺印 生島原

村田権九郎印

一同寺印 同

娘 まさ○

一同寺印 同

同 せ以○

一同寺印 同

同 か祢○

一同寺印 同

同 きん○

一快光院印 同

妻○

一晴雲寺^印 生島原

ノ老人女

下横目利喜太郎 母○

一浄源寺^印 生島原

町同心 仙四郎^印

一晴雲寺^印 同

娘 せん○

一同寺^印 同

同 みや○

一同寺^印 同

妻○

ノ四人内^{男三人 女一人}

一善法寺^印 生島原

町同心 益平 妻○

ノ老人女

一大福寺^印 生島原

町同心 亀太郎^印

離縁二付
暇出除事

ノ老人男

一桜井寺^印 生島原

外組 亀右衛門^印

ノ老人男

一安養寺^印 生島原

外組 住右衛門^印

ノ老人男

一晴雲寺^印 生島原

御旗組 村八^印

一同寺^印 同

娘 春、○

一同寺^印 同

同 里恵○

一同寺^印 同

倅 熊太郎○

ノ五人内^{男三人 女二人}

妻○

一崇台寺^印 生島原

御旗組 吉太郎^印

ノ老人男

一江東寺^印 生島原

御旗組 友治^印

一人内男四人

一願心寺印 生島原

板倉八右衛門家来 中村学之進

一人男

一專念寺印 生島原

松平勘解由家来 中島斗右衛門印

一人男

一称名寺印 生島原

松平勘解由家来 伊藤平内印

一人男

去十二月方辻村限助家内

小野東前妻二成ル 志希

一善法寺印 生島原

松平勘解由家来小柳津治太夫厄介 いち〇

一人女

一晴雲寺印 生島原

松平勘解由家来福田定九郎厄介 耆之丞印

一人男

一善法寺印 生島原

奥平與左衛門家来宮崎林右衛門娘 里せ〇

一晴雲寺印 同

厄介 ぬ以〇

一人女

一安養寺印 生島原

星野善右衛門家来 小林喜三郎印

一人男

此者伺之上帳
面二人候事

生島原 和光院家来
名字付亀太郎
一人男

真言宗

禅宗

浄土宗

右寺分

法華宗

一向宗

江東寺印

晴雲寺印

快光院印

崇台寺印

桜井寺印

護國寺印

安養寺監主

榊紋印

善法寺印

浄源寺印

願心寺印

一乘院印

玉峯寺印

専念寺印

称名寺印

勝光寺監主

得門印

大福寺印

一切死丹宗門并傳之者御穿鑿恒例急度被仰付拙僧共檀那胡乱成宗門無御座候自然不審成者御座候ハ、急度可申上候若脇方訥人御座候ハ、拙僧共不可通其罰候則檀那名書判形仕差上申候此外銘々別紙證文差上申候為後日仍如件

大福寺印

勝光寺監主

天野弥藤次殿
石河市郎左衛門殿

安養寺監主

得門印
称名寺印
専念寺印
玉峯寺印
一乘院印
浄源寺印
願心寺印
善法寺印
榊紋印
護國寺印
桜井寺印
崇台寺印
快光院印
晴雲寺印
江東寺印